

令和6年度 関係者評価

(様式2)

学校園名 加古川市立尾上幼稚園

1 教育目標	『心豊かに学び合い 育ちあうこどもの育成』
2 基本方針	目指す幼児像 ・心も体も健やかで明るい子 ・思いやりがあり心の優しい子 様々な経験を通して主体的に遊ぶ子 ・自分の思いを伝え素直に表現する子 ・感じる心 考える力がある子
3 指導目標	1 基本的生活習慣を確立する。 2 好奇心・探求心の芽生えにつながる豊かな体験を重ねる。 3 さまざまな人と関わる中で愛情や信頼感、自己肯定感を育む。

評価基準

A:できている

B:だいたいできている

C:あまりできていない

D:できていない

重点目標	評価項目	達成状況	自己評価の適切さ
基本的生活習慣を確立する	規則正しい生活を送ることができるようになったか。	A	言われたりやらされたりするのではなく、園生活を楽しみにすることで、自ら生活リズムができるということがとてもよい。
	自分の身の回りのことをしようとするようになったか。	A	家庭と園での様子は違うだろうが、年齢に合わせてできるように指導されているのだろう。
	人の話を聞こうとするようになったか。	B	先生の話、友達の話を楽しんでいることで、年齢に応じて話を聞くことができるようになると思われる。
	体を動かして遊ぶようになったか。	A	ドッジボールを異学年で楽しんでいて、十分に遊んでいることがよくわかった。
好奇心・探求心の芽生え	季節・時期を感じた遊び・保育内容を行ったか。	A	自然と触れ合う体験は何より大切である。これからも継続してほしい。
	やってみたい、もっとしたいと興味や意欲を育む保育内容だったか。	A	シール帳の国を毎月取り上げ遊ぶということがとてもよいアイデアだった。その中で子どもの興味が広がっていた。
	自分の考えや思いを伝えあう保育内容だったか。	A	その年齢に応じて自分の気持ちを伝えたり、友達の思いを聞いたりすることができるようになっていっているように思う。
様々な人と関わる中で愛情や信頼感、自己肯定感を育む。	友達との関わりが深まるような保育内容だったか。	A	異年齢の子ども達がいつも混じって遊んでいる。以前は家の周りで見られた光景であるが、今は難しい。園で十分に関わってほしい。
	いろいろな人に親しみを感じられるような機会をつくることができたか。	A	小さい頃にたくさんの人の愛情を感じることは大切である。身近なお店に出かけることも地域を知ることにつながる。
	友達や周りの人を思いやる気持ちを育むことができたか。	B	幼児の姿から保育者が気付き、継続的に指導をしていってほしい。